

羽島市における子育て支援策とそれについての母親の認知・利用状況に関する調査 —子育てグループに参加する母親たちが望む地域育児サポートとは—

育成期看護学講座 服部律子、堀内寛子、藤迫奈々重、清水智美、茂本咲子、兼子真理子
機能看護学講座 栗田孝子、林由美子、両羽美穂子
羽島市保健センター 橋本詩子、松本真理

【はじめに】

近年の出生率の低下や社会構造の変化は、母子保健行政においても、抜本的な改革を求められている。特に育児については、子どもに不慣れな母親、相談相手がいない、働く母親が増えたことなど育児に不安をもつ母親が増加していることが指摘されている。さらに地域から孤立し、育児の不安から子どもを虐待する、などの不幸な事態を招きかねないことから、育児支援は重要な母子保健施策となっている。今回は羽島市の育児支援の実態を母親の立場からその現状と問題点を明らかにしていき、今後の地域における育児支援のあり方を考えていきたい。

【調査目的】

羽島市における子育て支援策とそれについての母親の認知・利用状況を調査するとともに、母親たちが望む地域での育児支援やサポートについて、子育てグループに参加する母親たちの聞き取り調査から明らかにする。現在実施されている育児支援サービスについて母親の立場から、有効なサポートとは何か、また行政のサービスの不都合な点なども明らかにし、地域で望まれているサポートシステムの構築に役立つ資料としたい。

【羽島市の子育て支援事業】

通常の母子保健法に定められた事業の他に羽島市では、いくつか独自の事業を実施している。羽島市保健センターでは「プレマクラス」(母親学級)「プレマクラス調理実習」「妊婦さんの個別相談」また乳幼児健康相談のほかに「1歳児相談」「2歳児相談」「びよびよ広場」(離乳食を中心とした教室)「歯みがき教室とフッ素塗布」「祖父母学級」がある。また「羽島市こども生き生きプラン」には親子活動や子育て相談、子育てボランティアなどの支援プランがある。羽島市児童館には子育てサークルとコミュニティママ事業が行われている。国からの援助を受けた「羽島市地域子育て支援センター」は正木保育園内にあり①相談事業 ②子育てサークルの育成支援 ③特別保育事業(一時保育、延長保育、産休明け保育、障害児保育) ④地域の保育資源の情報提供の4つの事業がある。羽島市内の保育園での子育て支援事業には ①一時預かり ②園庭開放 ③乳児保育 ④障害児保育を行っている。さらに発達

支援センター・発達教室「もも」があり就学前の子どもの言葉・発達についての相談を行っている。

また児童館の活動として幼児・小学生を対象に遊びの施設を開放し、無料で施設を利用できるようにしている。児童館のコミュニティママ子育てサポートは、保育サポーターが主に家庭での保育を援助する制度である。

【羽島市の子育てサークル】

羽島市内には、子育てサークルが現在9つある。活動内容が把握できるものを表1にあげた。

【調査対象と方法】

以上のように羽島市には様々な育児支援事業があるが、受け手である母親達の認知はどうだろうか？ 今回の調査対象は、育児サークルに参加している母親である。聞き取り調査は、育児サークルの代表者の許可を得て、各サークルの活動日に訪問し、参加している母親たちにインタビューした。調査内容は、①サークルを知ったきっかけ ②サークル参加の動機 ③サークルに参加してよかったこと ④子育てに関する情報はどこから得ているか ⑤育児で困っていることや育児サークルに参加してよかったこと、⑥困った時の対処方法 ⑦羽島市で子育てしていて感じることを、要望などである。またサークルの代表者には、サークル運営で困っていること、サークルをしていて感じることを聞いた。

調査は大学の教員が2~4名で育児サークルに出向き、母親に調査の依頼をし、承諾のあった母親から個別に聞き取り調査をした。調査にかかった時間はひとりあたり10~20分程度、全体で1時間程度であった。訪問したサークルは4ヶ所であり、母親約45名から聞き取り調査を行った。調査結果は箇条書きして書きとめ、後に整理した。複数回答は1項目としてあげたが、少数(1人)の意見もすべて取り上げて結果にまとめた。結果の一部を以下にまとめた。

【調査結果と考察】

1. サークルを知るきっかけ

多かったものは、「友人やサークルに参加している母親からの誘い」であった。近所の子どもをもつ母親や友人から教えてもらった、ということが多く、口コミ

で広がっていることが多いと考えられた。また「保健センター(予防接種時)の掲示」や「広報や保健センター、児童館のチラシ」というものが次に多かった。

2. サークル参加の動機

サークル参加の動機は、子ども側の理由と母親の理由の大きく2つに分けられる。子ども側の理由として多かったものが、「同じ年頃の子どもと遊ばせたい」ということである。また「保育園に入る前に子どもの友達が欲しかった」という内容も多かった。近所に子どもがいないという世帯が多く、遊び友達を見つけるために、サークルに参加することが多いと考えられた。さらに「子どもが人見知りをするので親以外の人と接する機会をつくりたい」「家ばかりにいるのは子どもによくない」など、やはり子どもと親が地域の中で、孤立していくかもしれないという懸念から、仲間を求めてサークルに参加することが、多いのであろう。また「子どもを遊ばせる場所が少ない」という意見もあり、子どものために参加したいと考えている母親が多かった。

親側の理由としては、一番多い回答が「ストレス解消のため」というものであった。母親が子どもといつも一緒にいて、家に閉じこもりがちなることもあり、親のストレスがたまりがちであることが、予想される。母親はストレスから子どもにあたってはいけなく、思っていることもあり、ストレスが親子関係を悪化させるという不安を、母親自身が気づいていると考えられる。また「同年代の親同士の交流」「友人が欲しい」など母親が仲間を求める気持ちが強いことが感じられた。積極的に参加している母親も多いが、「友人から薦められて」という理由もあり、参加してみたら?というきっかけがあれば、参加しやすいのではという意見もあった。また転居して羽島に新しく住んでいる母親たちは、「羽島の環境や風習について知りたかった」という理由もみられた。

3. サークルに参加してよかったこと

参加してよかったことは、動機と対応して子どもと親の交流がもて、友人ができた、ストレス発散になった、という意見が多かった。さらに親子の交流のなかで、先輩ママからアドバイスがもらえる、なんでも相談できるなど、身近な相談相手として、サークルを利用していることがわかった。話を聞いてもらえたり、自分の子育てでの不安なことを相談したり、子育てや生活について役に立つ情報をえることが出来ると考えていた。

また子どもにも他の子どもと接していく中で、子どもが他の子どもと遊ぶ姿を見ることで、こどもにとってもよい変化を認めることができ、サークルの意味を実感できていた。

4. 子育てで大変なこと・困っていること

- ① 人手がない・・・母親がひとりで子どもを育てていることが多く、買い物や通院、急用などの時、子どもを見てもらえる人がいないので困る、という回答が多かった。
- ② 相談相手がいない・・・第1子の時にはどうしていいかわからなかった、育児方法について具体的に教えてくれる人がいない、など育児について専門的な知識をサポートしてくれる人が少ないと考えられた。また気軽に育児相談を受けたいという希望もあった。
- ③ 自分の体調・・・疲労感を訴える母親が多く、イライラ感、子どもを怒ること、など精神的な問題をあげる母親も多かった。また寝込むことが出来ない、休養を取ることができないなど毎日の緊張感の訴えもあった。
- ④ 地域の問題・・・羽島での子育てのしにくさが、困っていることとしてあげられた。具体的には、交通手段がなく、車がないと動けないことや、公園が少ない、広報が届かないなどであった。

困った時の対処法としては、相談することが多いが、相談相手は、実母・義母をはじめとする身近な親族、次に友人であった。助産婦や医師という意見もあったが、多くはなかった。

5. 母親からの子育て支援への要望

① 情報提供に関して

- ・ 子育て情報を公的な方法・場所を越え、地域全体で幅広くPRして欲しい(サークル・支援センター・児童館・保健センター)
- ・ わかりやすい、親しみやすい広報をしてほしい。保健センターにあった育児サークルの、お知らせだけでは、どんな様子かわからず、参加しにくかった
- ・ 広報に子どもに関する情報スペースを作って欲しい
- ・ 子育て支援センターをもっとPRしてもらいたい(サークルに参加できない母親もたくさんいる)

② 児童館に関して

- ・ 児童館は、役割に反してサークルなどへの協力が少ない。
- ・ 児童館が昼休み利用できないのは困る。
- ・ 児童館が子育て支援のキーステーションとなるように、子育て支援専門家を養成して活用して欲しい。また地域の民生委員や保健センターとの連携をつかって欲しい。

③ 保健センターについて

- ・保健センターでの事業がわからない(広報にあるということだが、広報が回ってこないところもある、情報網が少なく不便)
- ・保健センターでは授乳場所、おむつ交換の場所など、またベビーカーでは入れるようにして欲しい
- ・予防接種について麻疹が年1回というのが不便である
- ・母親学級は講義が中心なので友人ができない、妊娠中から友人づくりを援助してほしい
- ・待ち時間が長い、子どもをあそばせる場所がない、健診や予防接種以外に利用できないか

④ 医療機関に関して

- ・24時間体制の救急医療を充実させてほしい
- ・医療費助成は3歳までだが、それ以降もよく病気をするので、年齢を引き上げてほしい、また市町村によっても助成の年齢が違う。

6. 地域の子育て環境の整備について

- ① 公園など安全な遊び場所の充実
- ② 町ごとに子育てサークルが欲しい
- ③ 公共施設での育児に関する設備の充実(授乳場所・おむつ交換・ベビーカーなど)
- ④ 子育て支援センターを増やして欲しい
- ⑤ 情報提供の充実

その他として、子育てに関する教育(子どもの救急看護・親のための育児講座など)の普及として、学級活動や公開講座の開催を望んでいた。

7. サークル運営について

① サークル代表者会議での情報交換

「サークルの活動について知ることができた。自分達のサークル活動の参考にできる」という意見があった。代表者会議はサークル活動発展のために役に立つということであった。

② 代表者の負担

サークル代表者は、精神的にもまた時間的にも負担が大きい。しかし、代表者も複数ですると負担は軽減する、という意見があった

③ 代表者の育成

リーダーシップをとれる代表者を育てることが難しい、あとに続く人がいない。

④ サークル運営に関する援助の必要性

サークル運営や仲間づくりについて、できれば指導がほしいという意見があった。サークルをしていて気になることとして、サークルになじめない人や、サークルを途中で辞めていく人、サークルを移っていく人が気になっているということであった。また

サークル活動のマンネリ化を防ぐにはどうすればよいか、いつも集まって遊ぶだけでなく、何かイベントを計画したいが、その方法が難しいなどがあげられていた。

【今後の課題】

以上の調査結果から、地域で子育ての環境を整える看護職の役割を考えてみたい。特に今回は、育児支援からみた看護の役割ということで、母親のサポートとなる育児支援とは、どのような活動が考えられるかまとめてみた。

1) 情報の提供や広報の工夫

母親達の広報の利用は少なく、アパートに住んでいる世帯には、広報が届きにくいということもある。また広報があっても読まない母親もいた。このように広報の活用は、十分なされているとは言えない。特に育児サークルについては、母親同士の口コミで伝わっていることが多く、広報の方法に工夫が必要であろう。

また保健センターにあった育児サークルのお知らせでは内容がよくわからず参加しにくいということもあげられている。人から薦められてという方が参加しやすいようである。

また母親達は広報を見ないことが多いが、子どもの集まる場所、例えばショッピングセンターなどの掲示板は見る人が多い。地域の母親達のニーズに応じた広報の方法を考えていく必要がある。

2) 看護職・専門職の関わり

今回の調査結果にもあったように、育児サークルに参加している母親達は、サークルの仲間と交流する中で、日常のちょっとした育児に関する相談や、子育て生活の情報などを得ていて、それが役に立っているということであった。しかし、子どもの病気に関すること、しつけや育児で困っていることで、専門家に聞きたいことも多い。また発達や発育の判断や評価は、育児経験の少ない母親だけでできるものではない。専門家による育児相談は、乳児期から幼児期にかけて、母親たちが必要としているものである。またそのような相談は、わざわざ医師に出向いてすることは、ためらわれるので、できるだけ気軽に相談したいと願っている。地域のなかで、育児中の母親たちのニーズにこたえるためには、専門職による「相談」の機会が身近にあることが望ましい。地域の保健婦・助産婦や施設内の助産婦・看護婦が、地域で子育てする母親たちの相談にあたる機会が設けられるよ

うな、システムづくりが求められている。

子育てサークル発展のための地域づくり組織づくりへの援助

地域の育児サークルは、それぞれ独立している。そのサークルの運営は、サークルの代表者が主に行っているのであるが、ほとんどが住民としての母親であり、組織づくりや保育保健について素人の方々である。サークル代表者会議に出席して、他のサークルの情報を得て、自分達のサークル運営の参考にしていた。しかし、地域づくりに関しては、母親だけの力では不十分な点も多く、サークル専門家のアドバイスがほしいということであった。

また育児サークルは、乳幼児期の母親の集まりであり、子どもが3,4歳になると卒業していく場合が多い。しかし、地域の子どもの育成の環境という視点から見ると、乳幼児期だけでなく、幼児期後半、小中学生と子どもが成長するにしたがって、いろいろな問題

がでてくる。地域の育児力という点では、学童期以降にこそ、その力が発揮できると望ましいのではないだろうか。この育児サークルの仲間が、将来的にも続いていけるような、組織づくりへの援助求められると考えられる。

3)サークル間のネットワークづくり

子育てサークルは、それぞれ独立して活動している。仲間が固定し、自分達が満足しているとよいと、ともすれば閉鎖的になりがちである。サークル代表者会議は、サークル間の情報交換となり、さまざまなアイデアを代表者に与えることができる。サークル代表者会議で、他のサークルの状況や活動もわかり、行き詰まっていたサークル運営にも、違った視点から参考になるであろう。看護職が子育てネットワークの重要性を理解し、サークル間の連携を図る支援ができると思われた。

表1 羽島市子育てサークル 活動状況

サークル名	活動日時	場所	参加費	会員数
たんぽぽクラブ	毎週水(10:00~12:00)	大日堂(竹鼻町飯柄)	毎回 10 円	30 組
びよびよ	毎 週 水 (10:00 ~ 11:30)	足近公民館 2 階	年 300 円	18 組
ワイワイ広場	第3木(10:30~12:00)	児童館	毎回 100 円	15 組
かんがるークラブ	毎週金(10:00~11:00)	はしまコミュニティー	毎月 50 円	35 組
チュ・リップクラブ	毎 週 火 (10:30 ~ 11:30)	児童館	年間 300 円	30 組
わんぱくキッズ (9ヶ月から入園まで)	毎 週 火 (10:30 ~ 11:30)	江吉良公民館	各学期 200 円	20 組
Babyくらぶ (1歳未満)	毎 週 木 (10:30 ~ 11:30)	児童館	未定	20 組